

吸い込みラインからの漏えいについて

【概要】

2019年6月2日午前11時10分頃、常用・非常用高台炉注水ポンプC系吸い込みラインにおいて、1秒に2滴程度の水漏れを当社社員が発見しました。(漏えい範囲は、約3m×1m×深さ1mm)
漏えいした水は、拡大防止処置(土のう設置)がなされたエリア内に留まっており、外部への影響がないことを確認した上で、拭き取って回収しました。
速やかに、処理水バッファタンク出口弁の増し締めと、滴下下部に受け皿を設置し、漏えい箇所には閉止弁付フランジを取り付け、漏えいのないことを確認しました。
原因は、経年劣化により処理水バッファタンク出口弁からタンク内の水が漏えいし、ポンプC系旧吸い込みライン開放部から漏えいしたと推定しています。
なお、当該設備は処理水バッファタンクの取替工事のため、現在は使用しておらず、原子炉注水は継続しています。

【時系列(6月2日)】

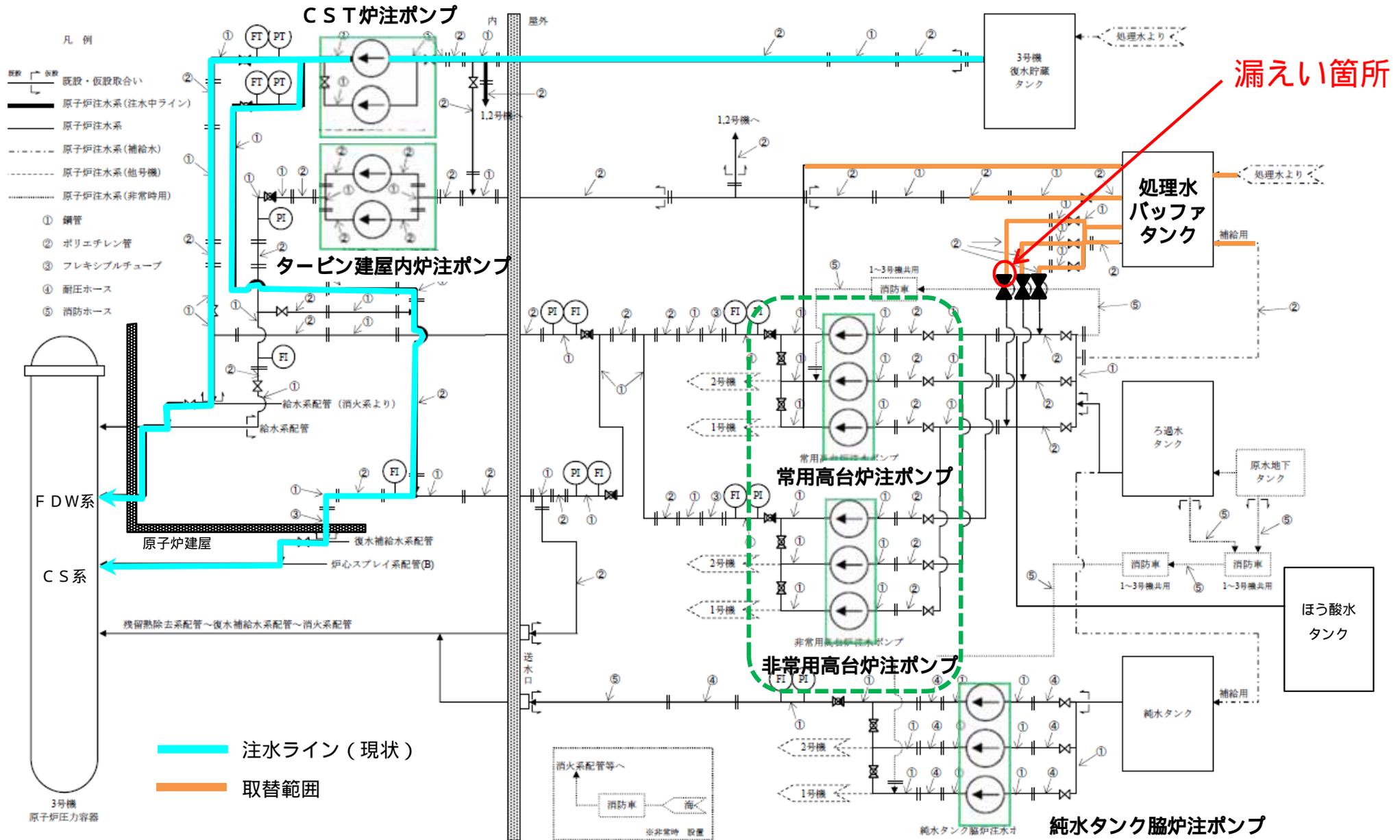
- ・午前11時10分頃
パトロール中の当社社員が水漏れを発見
 - ・午前11時51分頃
処理水バッファタンク出口弁の増し締めと、袋養生と受け皿を設置
 - ・午後2時30分頃
閉止弁付フランジを取り付け、漏えいのないことを確認
- 6月3日午前中に、閉止弁付フランジから、閉止弁無しの閉止フランジに取替え済み。



< 漏えい箇所 >



< 閉止弁付フランジ取付箇所 >



3号機原子炉压力容器・格納容器注水設備系統概略図